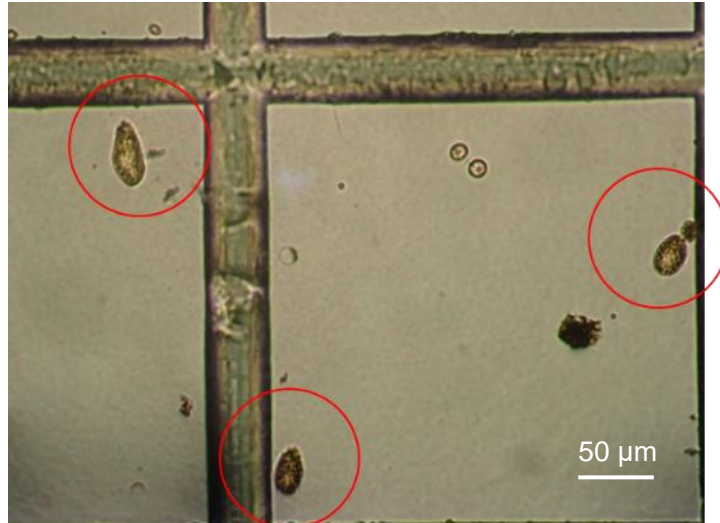


有害赤潮プランクトン調査

11月下旬に阿蘇海の漁業者から「漁獲して活かしておいた魚が弱っている」との情報提供があったことから、同湾の採水調査および海洋観測を実施しました。その結果、魚類に悪影響を与える有害赤潮プランクトン（人体には無害）が大量に発生（27,425 細胞/L）していることが確認されました。そこで、本種の発生を漁業者に注意喚起するとともに、その動向を把握するため、モニタリング調査を実施しました。

12月3日の調査では同種のプランクトンを検出しましたが、10日にはほとんど検出されませんでした。さらに、同日の水温は本種の増殖に適さない12℃程度まで低下していたため、同種の発生は終息したと判断し、関係者に情報提供しました。

今後も、漁業者が安心して漁業に取り組めるよう、海の異変に関する情報提供や依頼に、迅速かつ適切に対応していきます。



観察された有害赤潮プランクトン
(ナンカイチャヒゲムシ *Chattonella marina*)